



# MISSION\_VISION\_STRATEGY

August 2020 / POW Japan : Version 2

アウトドア アクティビティに情熱を注ぎ、  
そのフィールドやライフスタイルを気候変動から  
守るために行動する仲間たちの力となる。

## 2023年に向けてのビジョン

### 1. スノーコミュニティ・脱炭素社会

スキーヤー/スノーボーダーを中心としたアウトドア アクティビティ情熱を注ぐ仲間たちによる気候変動問題への理解が進み、自らこの問題を発信し、行動を起こしている。再生可能エネルギーへの切り替えなどの脱炭素社会を意識した選択と行動が、スノーコミュニティのスタンダードになっている。様々なジャンルやスタイルから構成される滑り手を中心とするアンバサダーたちは、自分起点の主体的活動をすることで、POWと共に問題解決のためのムーブメントをリードしている。また、そうした姿を見ている滑り手たちがインスパイアされて、行動や考え、ライフスタイルを変えるような影響力を持つまでになっている。

スノーコミュニティは自分たちがもつ社会の仕組みを変えられる力を信じ、脱炭素社会を実現するために選挙での投票などを通して積極的に政治に参画している。また、国や自治体に対して条例やルールを設けることを働きかけるなど、各地で行政との協働の動きを見せている。

こうした滑り手の意識や行動の変化と並行して、スノーリゾートによる気候変動対策も進み、その取り組みは他産業にとってのロールモデルとなっている。

また、POWへの支援や連携による意義やメリットが認識され、パートナー企業は50社を超えている。

こうしたスノーコミュニティにおける気候変動問題に取り組む機運の高まりによって、アウトドアコミュニティにおいても、自分たちが遊ぶ自然のフィールドを守るという姿勢が共有され、ムーブメントは拡大している。

また、学生向けのプログラム「HOT PLANET COOL ATHLETES」を継続的に実施することで、気候変動問題と向き合う将来世代の輪が広がっていくことに貢献している。

このような活動の積み重ねによって、滑り手は気候変動の問題に熱心に取り組んでいるというイメージが確立されると共に、スノーコミュニティの枠を超えてPOWに対する信頼や期待も高まっている。

\*1

<https://www.iges.or.jp/jp/pub/15-lifestyles/ja>

\*2

使用電力の再生可能エネルギーへの切り替え、照明のLED化や施設の断熱改修などの省エネ、脱プラや食材の域内調達、フードロスの改善などの施設内での取り組み、カープールパーキングなどによるゲストへの問題啓発など

## 2. 組織

多様なスタッフがそれぞれの能力を活かした業務を担い、外部のプロフェッショナルの協力を得て、事務局スタッフだけでは実現が難しい取り組みにもチャレンジできている。また、「気候変動問題から冬を守る」という理念への共感だけでなく、給与や働き方などを含む雇用条件の側面からも魅力的な仕事の選択肢になっている。

3名以上の理事で構成される理事会を設置することで団体の信頼性は高まり、より広範なネットワークが構築されている。POW INTERNATIONALと情報共有が図られ、連携による効果的なプロジェクトも実施できている。また、POW JAPANの活動に関わりたい、貢献したいと思う人たちが活躍できるボランティア制度が整っている。

<sup>\*3</sup>  
このような組織を運営する財源(固定費)が十分に確保され、その多くが個人サポーターによる寄付で賄われている。

\*3

1200~1500万円程度。

## ゴール 2021～達成すべき目標とその指標～

# 1. スノーコミュニティにおいてPOWの存在と活動内容が知れ渡り、スキーヤー/スノーボーダーが気候変動の問題解決に取り組んでいる

SNSフォロワー:トータル 10,000人

※5,787人(2020年3月時点)

個人サポーター:1,000人

※370人(2020年3月時点)

再生可能エネルギーへの切り替え:1,000人

アンバサダーが主体となる活動(イベントなど)が3回以上開催され、新たなアンバサダーが8名以上加わっている。

# 2. HAKUBA VALLEYで脱炭素型のスノーリゾートとしての先進的な取り組みが行われている

HAKUBA VALLEYによるコミットメントが出されている

複数のスキー場が再生可能エネルギーを利用している

HAKUBA VALLEYで再エネの地産地消モデルに向けた取り組みがスタートしている

大町市、小谷村でも気候非常事態宣言、もしくはゼロカーボンシティの宣言が出されている

### 3. HAKUBA VALLEYの取り組みがモデルケースとなり、他のスノーリゾートや自治体に波及させていくために、各地の滑り手や企業との関係性が構築されている

スキー場や自治体に対して働きかけを行うローカルとネットワークが3ヵ所以上できている

スノーコミュニティ向けプログラムのスタート

10ヵ所以上のイベントの実施

スキー場がパートナー企業に加わっている

### 4. ビジョン2023で目指す組織体制に着手している

全体ミーティングを月1回以上開催、毎回10人以上の参加

POW INTERNATIONALとの情報共有関係の構築と継続的な運用

ボランティア制度の運用スタート

新たな事務局スタッフの採用

ビジョンを実現するために

---

## Movement Building=仲間づくり

POWの存在、活動を知ってもらう 気候変動の関心を高める  
→問題解決に向けて、コミュニティの力を動員できるように

## Advocate Training & Engagement=啓蒙、教育

アウトドアコミュニティと子どもたちをターゲットに、気候変動に関する知識とその解決方法  
また、それを広めていくためのツールやスキルを提供  
→問題解決に向けて、コミュニティの力をよりパワフルにするために

## CO2 排出削減、または吸収のための具体的アクション

スノーコミュニティ、アウトドアコミュニティの視点から  
個人、企業、コミュニティ、自治体などのあらゆるレベルにおいて